

## 性格型と精密検査受診行動の関連性

— アンケート調査を試みて —

厚生連高岡総合検診センター

沼田 絵り子, 小林 昭子, 坂次 順子,  
福田 久美子, 渋谷 直美, 佐武 千佳子,  
作道 康子

### はじめに

私たちは、日々検診に携わり、検診結果をもとに健康相談を行っている。精密検査の必要な人には早期に受診するよう直接働きかけているが、同じことを言っても、その人その人で受け止め方や反応には違いがあり、精密検査を受ける人と、受けない人がいる。

昨年当センターでは、この両者の違いを探るという目的で研究を行った。その結果、検診を受けるという形ですでに予防的保健行動を実行している人の中でも、精密検査未受診者は、精密検査受診者に比べて日頃から問題や悩みに積極的に対処せず、保健行動よりも生活行動を優先させる傾向があった。

今回、精密検査を受ける人は、精密検査を受けない人に比べて、より積極的な性格を持つのではないかと考え、個人の持つ性格と、精密検査を受ける、受けないという行動との関連性についてアンケート調査を行ったので、ここに報告する。

### 調査方法

期間：平成8年5月15日～平成8年8月30日

対象：当センター日帰りドック受診者全員の中から、近年の精密検査受診状況

を振り返るため、前年度も当センターを受診している継続受診者1,005名を抽出。

方法：アンケート用紙を配布し、ドック終了時に手渡し回収する無記名自記式質問紙法

性格の分類：今井氏ら<sup>1)</sup>による性格の中の8特性について質問し、性格I型（抑うつ性、感情表出の抑制、無力感や絶望感への陥りやすさ、といった特性の基盤となる情緒不安定な内向型の性格）と、それと対照的な、性格II型（情緒安定した外向型の性格）の回答パターンを用いた。各個人の回答が、5項目以上でどちらかのパターンと一致する場合について性格型を判定し、それ以外は「その他」とした。（表1）

### 結果及び考察

#### (1) 対象者の背景

対象者1,005名の内訳は、男性475名、女性530名で、男性の平均年齢は57.1歳、女性は55.6歳であった。

平成7年度の検診を振り返ると、要精密検査の指摘を受けなかった者が469名、要精密

表1 性格分類に用いた性格特性と性格別の回答パターン  
(○: はい, ×: いいえ)

性格特性	性格型	I型	II型
		情緒不安定内向型	情緒安定外向型
1. 積極性		×	○
2. 精神的余裕		×	○
3. 率直性		×	○
4. 孤独感		○	×
5. 劣等感		○	×
6. 心配性		○	×
7. 感情抑制		○	×
8. 社交性		×	○

検査とされた者が536名であった。つまり、5割以上の人が何らかの指摘を受けている。精密検査受診状況を見ると、精密検査を受けた人が468名、精密検査を受けなかった人が68名という内訳となった(表2)。精密検査受診率は、87.3%となり、当センターの例年の精密検査受診率が70~80%であることからみると、比較的高い割合であった。男女別の精密検査受診率をみると、男性が84.3%、女性が89.5%となり、女性のほうが受診率は高く、これは例年の傾向どおりであった。

精密検査受診率が8割を大きく越えていること、又、その中で男性の精密検査受診率も8割を越えてきていることについては、今回抽出した対象者が、前年度からの継続受診者であり、検診を受けにきた動機も自分から進んで受診したという人が9割を越えるというように、自らの健康管理に関心の深い群であっ

た、と考えられる。

## (2) 性格型と精密検査受診状況

対象者の性格型の内訳は、I型240名、II型545名、どちらにもあてはまらない者が162名、回答不十分で分類できなかった者が58名であった。I型とII型の比はおおよそ1:2で、この傾向は年齢を問わずみられた。(表3)

宗像<sup>2)</sup>によると、日頃から問題や悩みに積極的に対処するタイプが、予防的保健行動(例えば検診を受ける等)をとるといふ。今回のアンケート調査の対象者が検診を受けにきた人であり、またそのほとんどが「自らすすんで検診を受けた」と答えていることから考えると、II型が多いという結果については理解できる。精密検査受診者に限ってみると、性格型の内訳はI型121名、II型243名で、そ

表2 対象者内訳

年代	受診者		未受診者		その他		計	
	男	女	男	女	男	女	男	女
20~29才	0	0	0	0	3	1	3	1
30~39才	3	11	2	1	9	11	14	23
40~49才	36	57	3	3	61	55	100	115
50~59才	60	100	20	14	67	83	147	197
60~69才	77	97	10	11	87	70	174	178
70才以上	18	9	1	3	18	4	37	16
計	194	274	36	32	245	224	475	530

表3 年代別性格型内訳

年代	内向型	外向型	その他	無効	計
20～29才	1	2	1	0	4
30～39才	12	22	1	2	37
40～49才	60	108	41	6	215
50～59才	88	186	48	22	344
60～69才	71	189	65	27	352
70才以上	8	38	6	1	53
計	240	545	162	58	1,005

の比はほぼ1:2, 又, 精密検査未受診者では, I型12名, II型39名で, その比はほぼ1:3となり, いずれにしてもII型が多いという傾向に変わりはなかった。検診を受けに来ている人達は, 積極的に予防的保健行動をとっている群であり, 性格についても外向型が多いといえる。

対象者の性格を, I型とII型に分類したうえで, 精密検査を受けるという行動とその性格型との関連性を, 有意水準5%で検定し

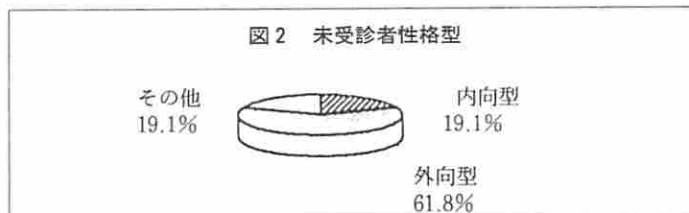
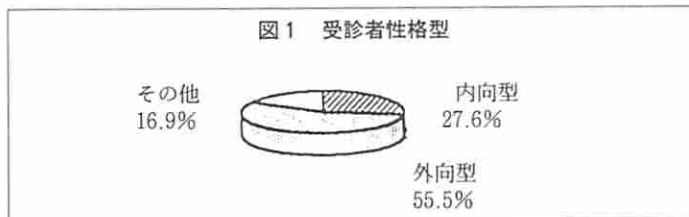
たが, 有意差は見られず, この両者の間に特に関連性はみられなかった。(表4)

今井氏ら<sup>3)</sup>は, 「健康である為には, バランスのとれた食生活や規則正しい生活習慣, 適度な運動, ストレスに対する耐性や適切な対処, といった生活習慣や行動パターンが必要であり, その行動パターンを決定する大きな要因の一つに性格が挙げられる。」と述べている。

食生活や, 規則正しい生活習慣というよう

表4 精密検査受診行動と性格型

性格型	受診者	未受診者	その他	計
I型内向型	121	12	107	240
II型外向型	243	39	263	545
その他	74	12	76	162
無効	30	5	23	58
計	468	68	469	1,005



な、性格による影響が毎日積み重なっていくものに比べて、精密検査を受けるか受けないか、というように生活の中に単発的に起こる問題については、性格による影響だけでなく、その人の社会的立場や、周囲の環境等の影響をより受けやすいのではないだろうか。

つまり、検診を受けるというように積極的に保健行動をとっている人達においても、次の、精密検査を受けなくてはならないという段階になると、その対応の違いについては、個人の立場や環境を抜きにしては考えられないといえる。

### (3) 精密検査未受診者の全体像

今回のアンケートで「昨年なぜ精密検査を受けなかったのか?」という問いに対する理由の中で、最も多くみられたのは、「仕事や他の用事のために、時間がとれなかった。」というものであった。次に、「たいしたことはないと思った。」「次の検診まで様子を見ようと思った。」等の、自分で精密検査は必要ないと判断してしまったものが多く、その他には「胃の検査は苦手だから。」とか、「検査の結果が怖いから。」等の言葉があった。このような思いをもつことにも、特に性格型による関連性はみられなかった。(表5)

日頃、健康相談を行うなかでもこのような訴えが聞かれる。それは、実際に仕事はどうしても休めず、精密検査に行けない人の訴えであることもあるが、忙しいからということ

を、逃避的な行動の理由にしているだけ、という場合もある。検診者とのコミュニケーションの中で、その人の気持ちがどちらに傾いているのか、を見分けることが精密検査受診を勧めるうえでの大きなポイントになると考える。

### (4) 今後の健康相談

今回のアンケート調査によって、検診受診者は情緒安定した外向型の性格を持つことが多い。また、精密検査を受けるか受けないかという行動については性格型による差はみられない、という結果を得た。

なぜ精密検査を受けなかったのか、という問いに対しては、結局多くの人が「時間が無い」「大したことはないと思った」等の理由で答えている。このような理由に対して、精密検査受診を勧めるためにはどのような対応をしていけばいいのだろうか。先にも述べたように、それぞれの理由の中には、言葉に現れてくる意味だけではなく、人によってはその裏に、「本当は検査に行くのが怖い」とか「検査の結果が出るのが怖い」といった意識が隠れている。これをいかに正確につかみ取り、適切な助言をしていくかという努力が必要となる。

幸い当検診センターでは、厚生連高岡病院の各科外来と連絡を密に取り合うことにより、同病院での精密検査を希望する人に対しては、受診予約をとり、時間的な問題についても可

表5 「昨年なぜ精密検査を受けなかったのか?」

理由	性格型	I型内向型 (12名中)	II型外向型 (39名中)
「仕事等で忙しく、時間がとれなかった」		5名	11名
「大したことないと思った」		2名	6名
「以前異常なかったので様子を見ようと思った」			4名
「自分でわかっていたから」		1名	3名
「家族の看病で」			2名
「結果が出るのが怖い」			1名
「胃の検査が苦手だから」			1名

能な限りは受診者の便宜を図るという体制をとっている。このようなシステムをうまく利用しながら、検診者の個別性を重視した結果報告会及び健康相談を行う努力を続けていくことが、精密検査の受診率向上につながっていくのではないだろうか。こういった努力は、現在もスタッフの協力のもとに行われている。この調査は、対象者を限定した精密検査受診率の集計結果をもとに行ったが、毎年行う一年を通した集計の結果をスタッフ間で常に見直し、自分たちの関わりがどうであったかを評価していくことで、さらにより良い検診活動をめざしていかなければならない。

## ま と め

検診受診後、要精密検査と指摘された時、精密検査を受ける人と受けない人の性格に違いがないか、ということについてアンケート調査を行い、次のような結果を得た。

1. 検診受診者の性格型は、情緒安定した外向型の性格が多かった。
2. 精密検査受診者と精密検査未受診者の間に、内向型と外向型の性格による違いはみられなかった。
3. 精密検査を受けなかった理由には、内向型と外向型の違いはなく、同じような傾向が見られた。

## 引用・参考文献

- 1) 今井一枝, 中地 敬: 性格と生活習慣との関連性. 日本公衛誌 37: 577-584, 1990.
- 2) 宗像恒次: 行動科学からみた健康と病気. メジカルフレンド社, 1994.
- 3) 今井一枝: 性格別にみた生活習慣. 公衆衛生58, No12: 848-851, 1994.
- 4) 作道康子, 他: 要精検未受診者の実行要因. 日本農村医学会雑誌45(3), 1995.